

高温登熟性に優れる多収・良食味の普通期栽培用水稲品種「鹿児島72号」

「鹿児島72号」は「ヒノヒカリ」に比べて高温登熟性に優れ、収量が約10%多く、普通期主力品種との作期分散が可能

背景・目的

- ・本県水稲の普通期栽培では、「ヒノヒカリ」が作付面積の約8割と偏っており、適期栽培や収穫期の分散が困難
- ・「ヒノヒカリ」はいもち病に弱く、多発年には収量が大きく減少
- ・「ヒノヒカリ」は高温登熟性が劣り、夏季の高温年には玄米外観品質の低下が問題
- ・「ヒノヒカリ」と異なる熟期で、高温登熟性に優れ、いもち病抵抗性を有する、多収・良食味の品種が必要

成果の内容

「鹿児島72号」の特徴（「ヒノヒカリ」と比較）

- ・出穂期で2日、成熟期で6日遅い 普通期栽培用の早生～中生種
- ・いもち病抵抗性は葉いもち“強”，穂いもち“中”で「ヒノヒカリ」より強い
- ・高温登熟耐性が強く、玄米外観品質が優れる
- ・千粒重はやや重く、収量は約10%多い
- ・食味，稈長，穂長，穂数，倒伏程度は同程度

品種名	項目	玄米重 (kg/a)	ヒノヒカリ比	千粒重 (g)	玄米 外観品質
鹿児島72号		59.8	114	22.7	4.3
ヒノヒカリ（指標）		52.5	100	20.9	6.5

注)1. 玄米外観品質は1（上上）～9（下下），10（規格外）の10段階評価



ヒノヒカリ

鹿児島72号



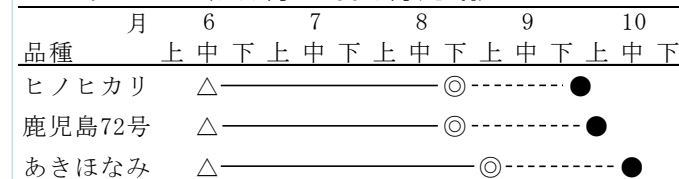
ヒノヒカリ

鹿児島72号

- ◎耐倒伏性が「ヒノヒカリ」と同程度のため、極端な多肥栽培は避ける。
- ◎トビイロウンカ抵抗性遺伝子*bph11*を有しているが、トビイロウンカの防除は「ヒノヒカリ」と同様に行う必要がある。

期待される効果

○異なる熟期で作期分散



△：移植期，◎出穂期，●成熟期

○いもち多発年の収量安定化

○夏季の高温年の品質安定化

○生産者の所得向上と労力分散

○普及対象・範囲

県内の水稲普通期栽培地域の生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部作物研究室